

# 最終講義

---

地域研究－越境あるいは跨境の勧め

田中耕司  
(京都大学地域研究統合情報センター)

2010年3月12日  
稻盛財団記念館大会議室

# 地域研究をめぐって

---

- 「地域」の理解を目指す地域研究は、固有のディシプリンか？  
それともさまざまなディシプリンのアリーナか？
- 地域研究は「地域」を対象とする学術的営為である以上、「地域」を切り取らないことには始まらない。
- 何らかの切り取り(「分ける」「括る」)作業が必要。

## 大島襄二『文化地理学序説』(1976)から

---

「分類ということは、便宜上、分けていくだけのことであって、分類したものが一つ一つ全く別のものであるとのではないということ、分類の仕方も、その基準によっていくとおりでもあるもので、これでなければならないという分け方はないということ、そして一見どんなにみごとに分類されているようでも、実際には、どこにもうまく入りきれないもの、どちらに入れてもよさそうなものもあり得るということです。」

この言葉は「地域」を切り取ることにも通じる

# 最終講義でお話したいこと

---

- 地域研究をめぐるディシプリンかアリーナか  
という議論にわたしなりの整理をしておきたい。
- そのために、わたしの仕事の一端を紹介して、  
地域研究における「越境」あるいは「跨境」の  
重要性を指摘したい。

# 事例A

---

「稻作技術発展の論理—  
アジア稻作の比較技術論に向けて」  
『農業史年報』No.2: 5-26, 1988.

# 山間盆地型稻作の景観



京都府



タイ北部



ラオス



中国福建省



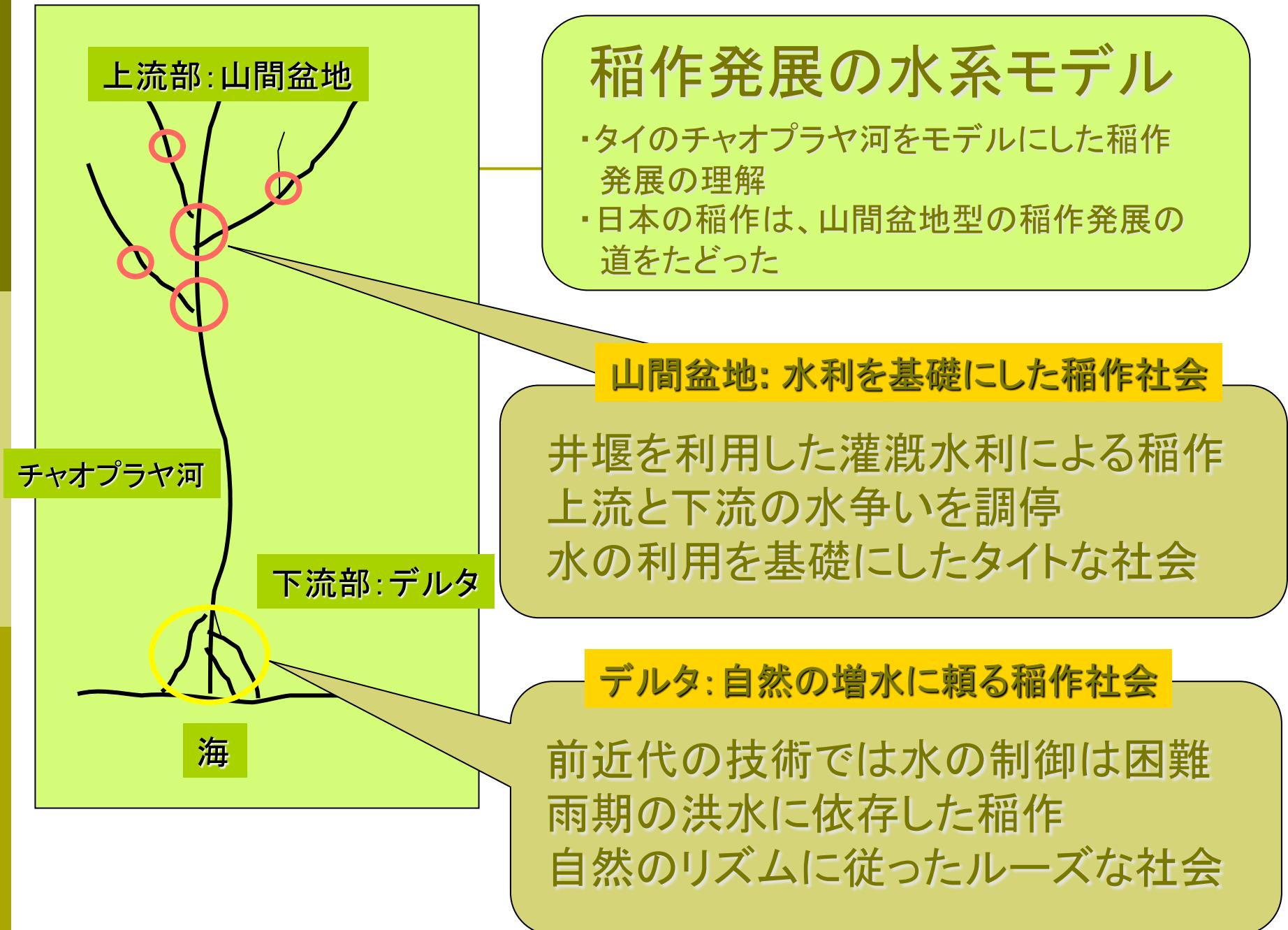
# デルタ型稻作の景観

ベンガル・デルタの雨期と乾期の水田



メコン・デルタの運河網と水田

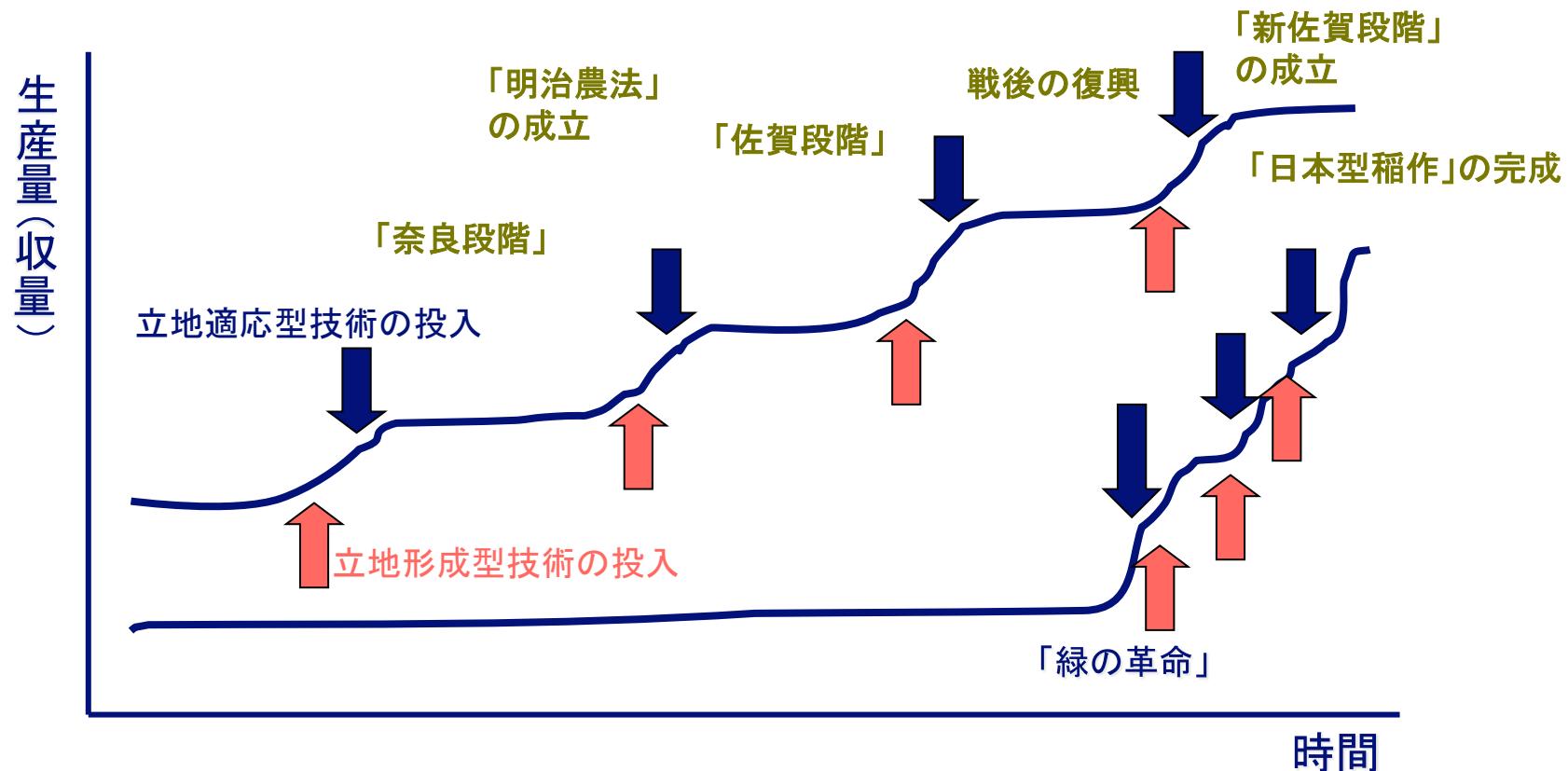




## 「農学的適応」の稲作 vs. 「工学的適応」の稲作



## 「立地(環境)適応型技術」vs.「立地(環境)形成型技術」



立地形成型技術と立地適応型技術の継起的投入による稲作発展

## 事例A

---

「稻作技術発展の論理—  
アジア稻作の比較技術論に向けて」  
『農業史年報』No.2: 5-26, 1988.

自然と人間との関係は常に変化していくことを  
意識して、稻作の技術展開に焦点をあてて  
モデル化し、そのモデルを適用することによって  
地域を理解しようとした

(ダイナミズムのモデルをつくる)

## 事例B

---

「マレー型稻作とその広がり」  
『東南アジア研究』29 (3): 306-382,  
1991.

# 稻作技術からみたアジアの3つの稻作類型

	インド型稻作	中国型稻作	マレー型稻作
品種群	インディカ品種群	ジャポニカ・インディカ品種群	ジャバニカ品種群
本田準備法	2頭の牛に牽引させた犁耕と耙耕	1頭の牛・水牛に牽引させた犁耕と耙耕、鍬耕	櫂型鋤、鍬で人力耕、家畜による蹄耕と人による踏耕、無耕起
苗代様式	水苗代・陸苗代ばら播き	水苗代・陸苗代ばら播き	水苗代・陸苗代のばら播きと点播、穂播き
栽植法	乾田散播・一部に湿田散播。移植が増加しつつある	移植	点播、穴あけ移植、乾田移植、湿田散播。移植法が増える
中耕・除草法	畜力利用の耙耕 移植は手鍬で除草	手取り、または除草具で人力除草	手取り、またはへら状除草具や掘棒で人力除草
刈り取り法	鎌（彎曲鎌）で根刈り	鎌（三日月鎌）で根刈り	穂摘み具または手で穂摘み。 鎌による根刈りが増える
脱穀法	牛蹄脱穀・打ちつけ脱穀	打ちつけ脱穀	足踏み脱穀、横臼で脱穀。 打ちつけ脱穀増える
調製法	足踏み式臼で糲摺り・搗精	臼と杵、回転を利用した臼で糲摺り	臼と杵で搗精

# インド型稻作と中国型稻作の犁耕法

インド型(2頭牽き)



中国型(1頭牽き)



(インド型犁で1頭牽き)



混合型

(中国型犁で2頭牽き)



# マレー型稻作の耕耘法 (マダガスカルの例)

櫂型鋤による耕耘



舟の櫂と  
鋤の類似



牛による蹄耕



# マレー型稻作の耕耘法

インドネシア、  
スラウェシ島



人による踏耕



蹄耕・踏耕

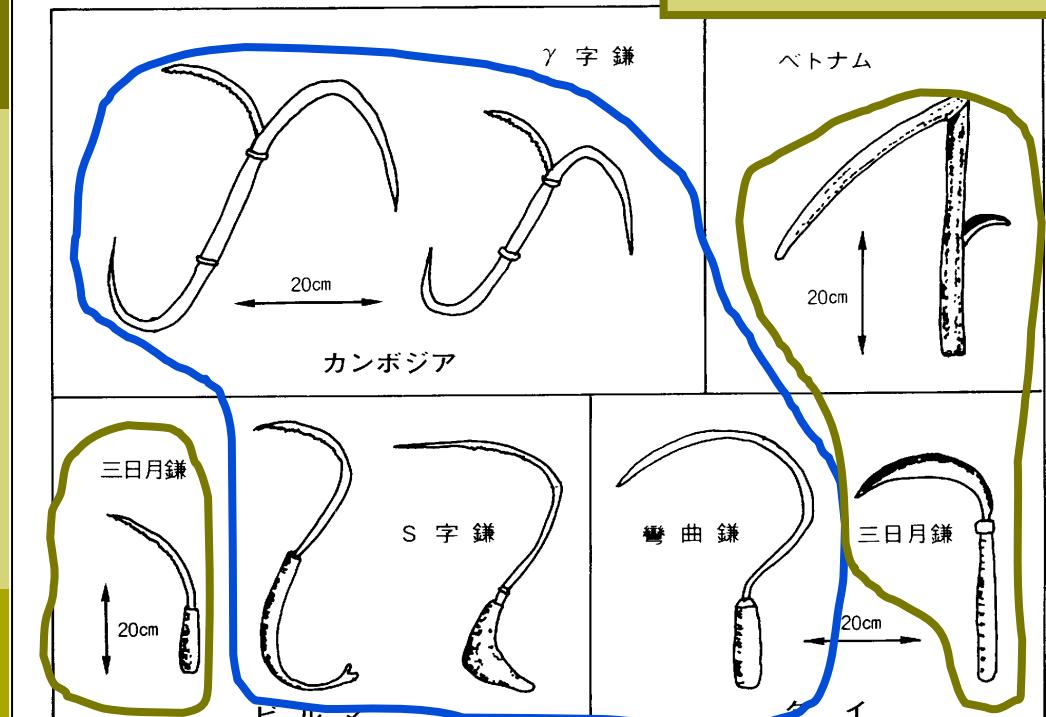


櫂型鋤による耕耘



# インド型稻作と中国型稻作の鎌の種類

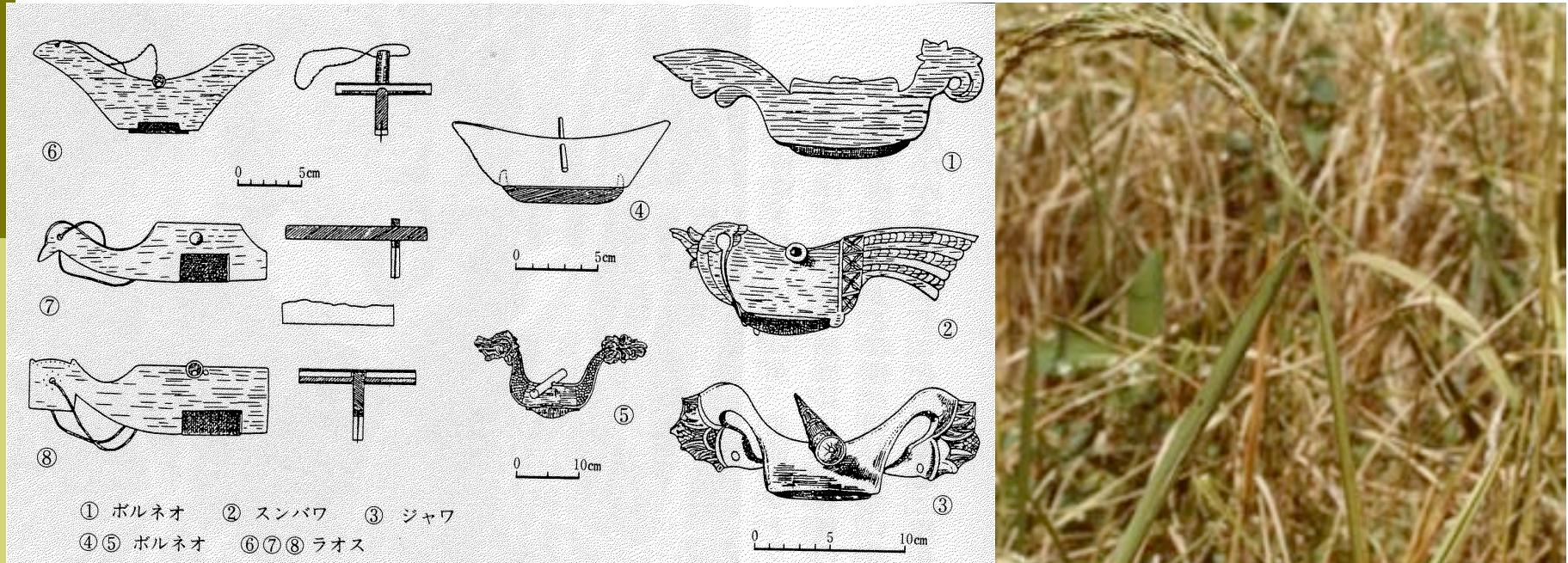
## 中国型稻作の鎌



## インド型稻作の鎌

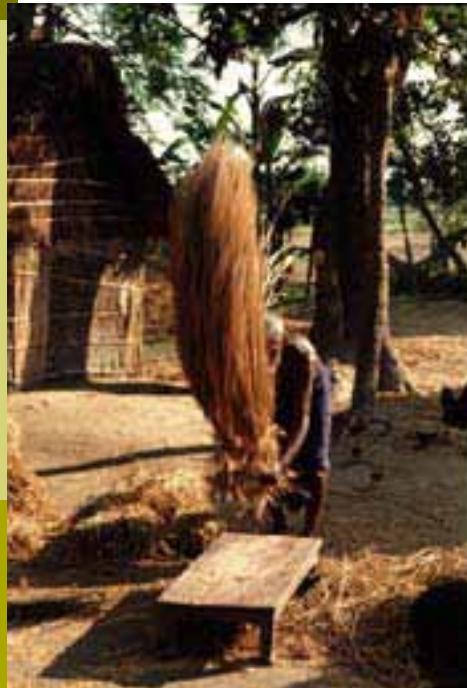


# マレー型稻作の収穫法(穂摘み具)



# インド型・中国型 稻作の脱穀法

打ち付け脱穀  
(中国型・インド型)



牛蹄脱穀  
(インド型)



# マレー型稻作の 脱穀法



足踏み脱穀



臼と杵で脱穀



## 3つの稲作類型の分布から 推定される日本への稲作の渡来



インド型稲作

中国型稲作

マレー型稲作

マレー型稲作が  
残存する地域

今はマレー型  
稲作を確認で  
きない地域

## 事例B

---

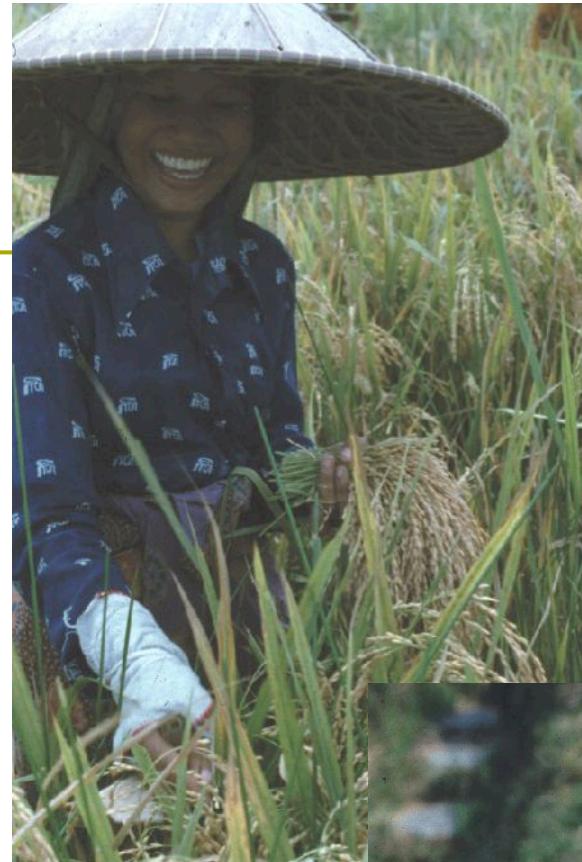
「マレー型稻作とその広がり」  
『東南アジア研究』29 (3): 306-382,  
1991.

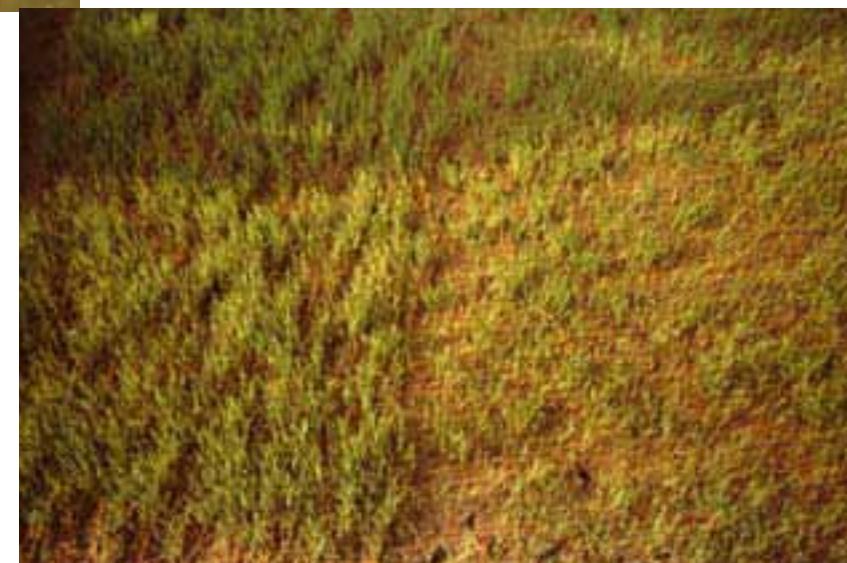
稻作技術の構成要素を「分けて、括る」  
作業を通じて生まれてきた地域の分類  
(地域の見取り図をつくる)

## 事例C－1

---

「穀作農耕における『個体』と『群落』の農法」  
『農耕の技術と文化』24号：89-113,  
2001.

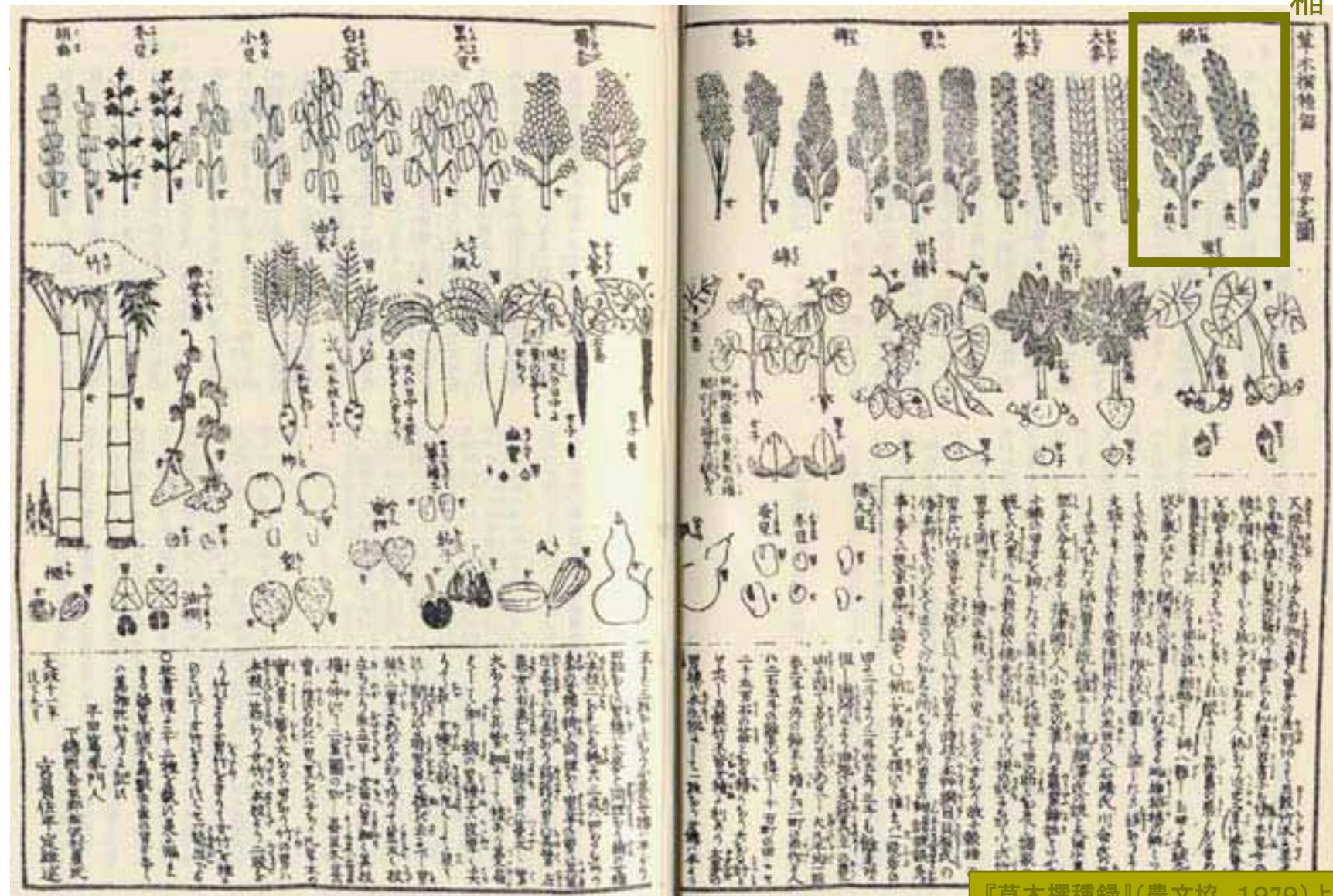






## 江戸時代の緻密な栽培法の一例: 作物の「雌雄説」

稻



『草木撰種録』(農文協、1979)より

# 陰陽説の否定と 近代西洋科学の 導入

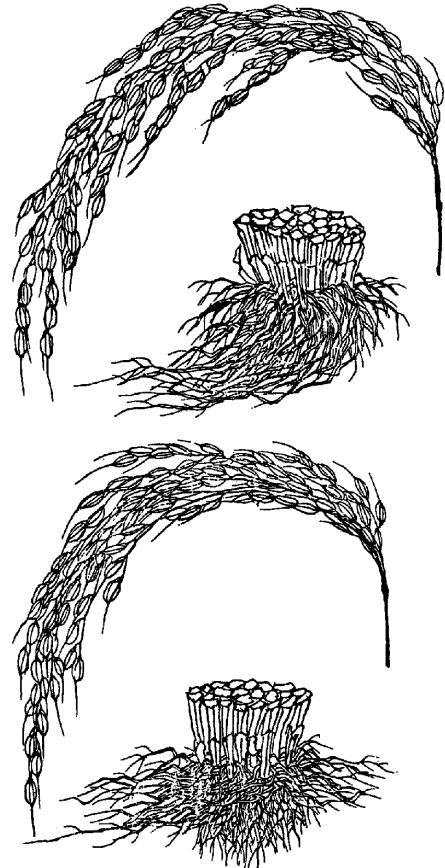


図5 『農稼業事』の雌穂(上)と雄穂(下) 雌穂は穂先で2本の枝梗がそろっている。

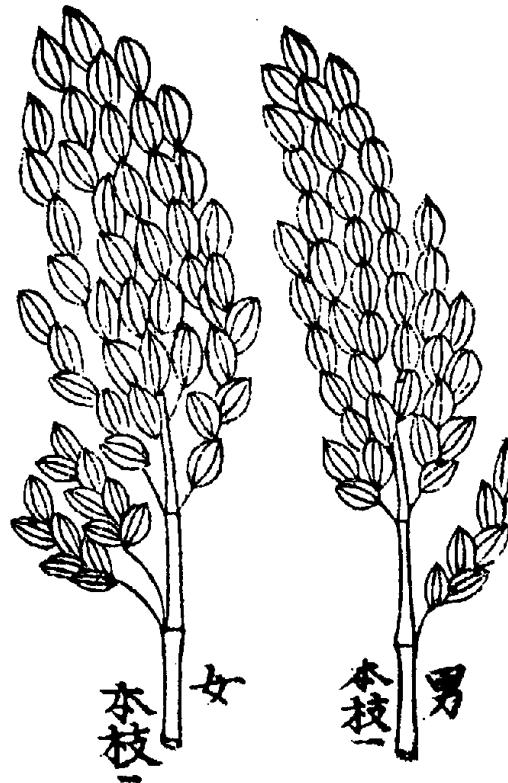


図6 「農業余話」の雌穂(左)と雄穂(右)  
図は「農業余話抄」より。

# 陰陽説に基づく作物の雌雄説

作物にはすべて雌雄の別があり、「雌」から翌年の種子や株を探ればよい収穫が得られる

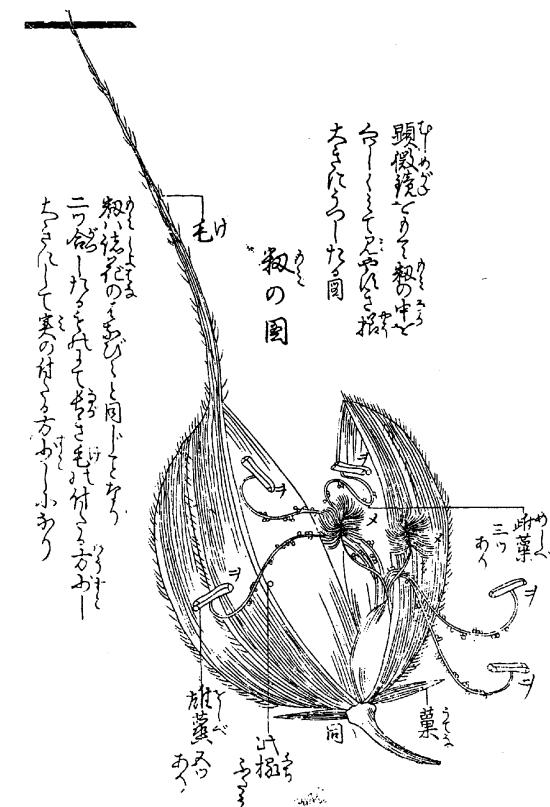


図8 「再種方附録」の稻の花の解剖図

## 事例C－2

---

***"Kemiri (*Aleurites moluccana*) and Forest Resource Management in Eastern Indonesia: An Eco-historical Perspective." Asian and African Area Studies, No.2: 5-23, 2002.***

## クミリ (*Aleurites moluccana*)

トウダイグサ科アブラギリ属の常緑喬木

和名：ククイノキ

英名：candlenut tree



## 熱帯における油料作物

### －植物の繁殖戦略としての油脂

- ・<種子蓄積型>と<果実蓄積型>

### －熱帯における油料作物

- ・油脂含有植物種の70%は熱帯に分布
- ・大型種子を生産するものは大部分が熱帯産

### －土地利用を変化させる油料作物

- ・プランテーション作物として
- ・住民農業の換金作物として
- ・「ブーム」の到来による大規模な土地利用変化
- ・アブラヤシは、この典型的な例の一つ  
(他に、ココヤシ、クミリ、チョウジ、カカオなど)